

道徳通信

2019/09/07
No.5
東中筋中学校

運動会の練習が始まりました

体験を通して育まれる心

すでに学校だよりもお知らせしたように、二学期は様々な行事や活動があります。その中で、生徒たちはいろいろなことを思いながら活動します。自分自身のこと、仲間のこと、地域のこと、等々。その体験が、生徒の心を深く、広く育んでいきます。

先週から早速、運動会の練習が始まっています。この運動会でもいろいろな心が育っていきます。ご家庭でも、子どもさんの心の成長を応援してください。

○運動会テーマ 「可能性は無限大」

○重点目標

- ・小学生と団結して、競技・応援・係に全力を注ぐ。
- ・何でもチャレンジしよう。レッツトライ！最後まであきらめない。
- ・練習では競技を完璧にできるようにする。本番では一人ひとりが全力で戦う。皆が楽しみながら行う。

○中学生種目

- ・100m走、創作ダンス、綱引き、長縄跳び、百足競争、借り物競争、タイヤ奪い、紅白リレー、3年親子リレー

協力してより良い集団を作ろうとする心

練習や準備は、皆の心が同じ方向に向いてないと進みません。やり方はいろいろあっても、意見を戦わせることがあっても、運動会のテーマや重点目標に向かおうとする思いはひとつです。みんなが力を合わせることで、成長や感動が生まれます。

友だちとともに励まし合い、高め合う心

みんながみんな体を動かすことが得意とは限りません。そんな中でも、がんばってみようと思えるのは、仲間からの励ましがあるからではないでしょうか。

自分で考え、誠実に実行する心

人数の少ない学校です。その分、一人ひとりに大切な役割があります。競技や係で、自分にはどんなことが任されているでしょうか。それを考えながら自分から動くことが、運動会の成功につながっています。

新しいものを生み出そうとする心

夏休みから、ダンスリーダーや応援団のメンバーが、アイデアを出し合って演技を創り上げてくれました。執行部もテーマの看板作りを進めています。一つの形にまとめるには長い時間がかかりますが、苦勞すればするほど、完成したときの達成感は格別です。

公正さを大切にしようとする心

点数を競うのですから、勝ちたい気持ちはだれも同じ。競技のルールにのっとって競ったり判定したりすることが、見る人、する人の気持ちよさにつながります。



応援団を中心に、校歌や行進の練習をしました。団結賞に向けて気持ちが高まってきました。



ダンスリーダーが、説明の後演技を見せてくれました。その後、三つのグループに分かれ、練習しました。みんな一生懸命覚えました。

道徳の授業より



1年生「あのハチドリのように」ワンガリ・マータイ」（自然愛護）

故郷の異変から自然と人間との関わりを捉え、グリーンベルト運動に尽力したマータイさんの思いについて考えながら、自分たちほどのように自然を守ることに関わっていきけるかを話し合いました。

Q 『人間の社会が発展するために、山がなくなってしまうのはどう？』

「いや」「何かいや」「イオンに代わるならいい。山1個くらいなら
「でも、木がなくなるのは・・・」

Q 『マータイさんのように、故郷の風景が変わってしまうのは？』

「自分にとって必要性のあるものならいい。」
「景色が変わると」 思い出がなくなってしまう。」
など、自分の生活につなげて考えた意見が出ていました。



2年生「明かりの下の樹木」（集団生活の充実）

1964年東京オリンピックの女子バレーボールチームで、マネージャーを務めた鈴木恵美子さんの生き方を考えることを通して、集団の中で自分の役割を果たすことや、集団生活の充実に貢献することについて考えました。

Q 『鈴木さんが涙を笑顔に変えることができたのは、どんな思いがあったから？』

「チームをよくしたい」「陰で支えて強くしたい」「マネージャーもチームの一員」「選手の成長が自分の喜び」「頼ってくれてやりがいを感じた」「バレーボールもチームも好き」

Q 『あなたが仕事をする上で、どんなふうに関わり役に立っている？』

「次の授業が始まりやすくなる」「食器洗いをすることで母の休む時間が増える」「ゴミを集めて環境を整える」「学級をまとめる」「提出物の出し忘れがないようにする」

など、集団の一員としての自分の役割や思いについて、様々な意見を出し合いました。



3年生「ジュニア」（自分の行為の責任）

主人公が友だちに送った画像が拡散したことで起きた問題について考えることを通して、情報社会における行為と責任について考えました。

Q 『知り合いから送られてきたその人の画像を他の人に送る？』

・送らない 「許可を得る」「広がったらいけない」「トラブルになったらいや」
・送る 「見せて、と言われたら、面白さを共有したいので、勢いで送るかも」

Q 『この主人公は、拡散したことの責任をとれる？』

「校内なら、一人一人に（事情を）言えるけど、ネットやSNSに流出したら、消すことはできないので、（責任がとれるかどうか）分からない」
など、身近でもありがちな内容だったので、それぞれの立場で考えることができていました。

☆ 教材の詳細は内容について、子どもたちに聞いてほしいけれど、ネット、SNSなどについて話をしようという機会を設けてほしい。